



北の森 2025. 2 No. 107



- ・広葉樹資源の安定供給体制の構築（資源活用第二課）
- ・造林作業等の軽労化・省力化への取組（渡島森林管理署）
- ・こんにちは森林官です！（西舎森林事務所）
- ・美しの森 お薦め国有林 桂沢スキー場野外スポーツ地域（空知森林管理署）
- ・センター通信（森林技術・支援センター）

林野庁



北海道森林管理局

広葉樹資源の安定供給体制の構築

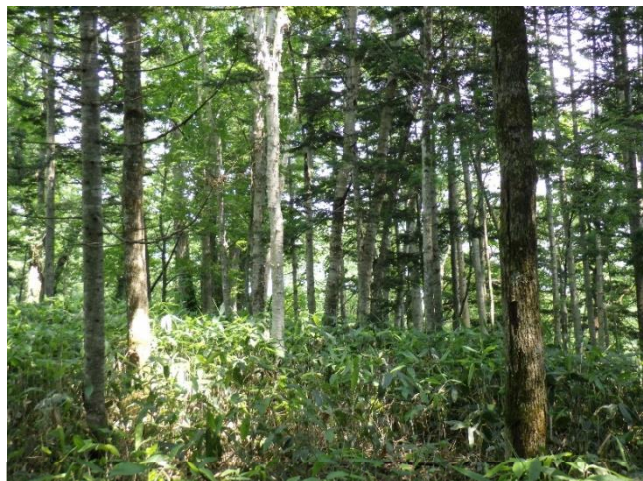
資源活用第二課

北海道森林管理局は、森林整備のため伐採される広葉樹の有効利用に取り組んでいます。

【はじめに】

北海道森林管理局が管理する国有林は約304万ヘクタールで北海道全体の森林面積の約55パーセントを占めています。そのうち約65万ヘクタールがトドマツやカラマツなどの人工林で、その多くの森林資源は成熟し、本格的な利用期を迎えています。

北海道森林管理局では、公益重視の管理経営を一層推進しつつ、地域における木材安定供給の構築を図るため、森林の機能に応じた施業の結果、得られる木材の持続的かつ計画的な供給に努め、地域の林業・木材産業の活性化に貢献することとしています。



人工林内に生育する広葉樹

【具体的な取組】

かつて、北海道には良質な広葉樹が生育していましたが、高度成長期における木材需要の高まりによる伐採で、天然林では、太く良質な広葉樹の資源量は減少しました。

一方、同じく高度成長期に造成した人工林内に

は、天然更新により発生した多くの広葉樹が生育しています。こうした人工林の成長に伴い実施する間伐などの森林整備により伐採された中小径木の広葉樹の有効利用を図るため、道内の各森林管理署において、採材・仕分けの勉強会を実施しています。



採材仕分け勉強会

そして、森林整備により出材された良質な広葉樹については、全国有数の取引市場である旭川銘木市に出品して、全国から集まる参加者の入札により販売しています。



旭川銘木市

【広葉樹の用途】

広大な大雪山国立公園の麓に位置する旭川市を中心とした東川町、東神楽町、当麻町一帯は、日本5大家具産地の一つに数えられる「家具の聖地」と言われています。

販売された広葉樹は、工場で丸太から板に製材され、長い年月を掛けて自然乾燥され周辺の家具工房等で加工されます。

この地域は、以前から豊かな自然と森林資源に恵まれ身近に良質な木材を使用できる環境から、家具製造が盛んな地域でしたが、近年では、職人と先端機械が織りなす高い技術力と「デザインの追求」が進められています。

初夏には、家具を中心としたデザインイベント「旭川デザインウィーク」を開催して、全国から多くの来場を得ています。



旭川デザインセンター

また、旭川周辺の家具メーカー約40社で組織する旭川家具工業協同組合は、北海道産材の活用を推進する「ここの木の家具・北海道プロジェクト」に取り組んでおり、現在は、約7割の旭川家具が北海道産広葉樹で製造されています。



旭川デザインセンター

北海道産広葉樹は、他にもジャパニーズウィスキーブームによる原酒熟成に必要なミズナラ樽としての需要、インバウンド増加によるホテル建設の調度品としての需要、学校等の非住宅分野における需要などがあります。



ミズナラのテーブル（北海道森林管理局1階）

こうした中、世界的な木材需給の変動やロシア・ウクライナを巡る情勢、為替の動向などの影響により、外国産広葉樹丸太の輸入が困難となるなど、地域産業の需要者からは、海外情勢の影響を受けにくい、北海道産広葉樹の持続的かつ安定的な供給を望む声が益々高まっています。

【今後の展開】

北海道森林管理局では、需要者が求める付加価値の高い用途向けの採材・仕分けによる市場への広葉樹供給に取り組んでいくため、これまでは紙製品の原料となるチップとして利用されていた中小径材の丸太についても、貴重な広葉樹資源を有効利用するため、より細かな仕分けを行うなど、ニーズを踏まえた市場供給する取組をこれからも進めて行きます。

なお、天然林にも広葉樹資源が少しずつ回復しています。一方、ササの繁茂等により公益的機能の劣化した箇所も多く生じています。こうした箇所の機能を回復させるため「樹群択伐天然更新施業」という伐採と更新補助作業を一体とした施業を試行しているところであり、その結果として生産される広葉樹材も持続可能な形で供給していく考えです。

地域課題の解決に向けた取組

造林作業等の軽労化・省力化への取組

渡島森林管理署

【はじめに】

渡島森林管理署は、渡島半島の中央に位置し、渡島総合振興局及び檜山振興局管内にまたがる7町（長万部町、今金町、せたな町、八雲町、森町、七飯町、鹿部町）の国有林143千ヘクタールの国有林を管理しています。

主な河川としては、日本海側に西流する後志利別川や内浦湾（噴火湾）に東流する遊楽部川が挙げられ、渡島半島最高峰の狩場山（1,520m）、第2峰の遊楽部岳（1,277m）を有しているほか、駒ヶ岳（1,131m）の一体は、周辺の湖沼を含めて大沼国立公園に指定されています。

【地域の課題】

管内における森林資源は、民有林・国有林ともに人工林が利用期を迎え、伐採及び再造林箇所の増加が予想される中、林業従事者の減少や高齢化が進んでいる現状となっています。この状況下を踏まえ、今後、適切に森林整備を進めるための対策を検討することが、地域では喫緊の課題となっています。

【課題解決に向けた取組】

国有林では、造林事業量の増加に対応するため、伐採から造林までの一貫作業システムの導入やコンテナ苗の使用、また、下刈回数を削減するなどの各種取組を行っています。

当署においても、これら取組を主体に実行し、更なる課題解決に向け、渡島総合振興局東部森林室と連携し、造林作業等の軽労化・省力化を図るため、各市町村担当者や地域の林業事業体の方々に参加いただき、リモコン式草刈機や無人航空機による苗木運搬などの操作・体験を中心とした実演会を実施しました。



リモコン式草刈機の実演



無人航空機による苗木運搬の実演

【今後に向けて】

実演会の当日に行ったアンケート調査では、各機種の特性や操作について理解を得られた一方、リモコン式草刈機については、一定の評価を得つつも急傾斜地や伐根、凸凹地への対応を危惧する意見がありました。

今後は、様々な意見を反映させるため、関係機関と情報共有・意見交換しながら諸課題の解決に向け、現地検討会や勉強会などの取組を継続していきたいと考えています。



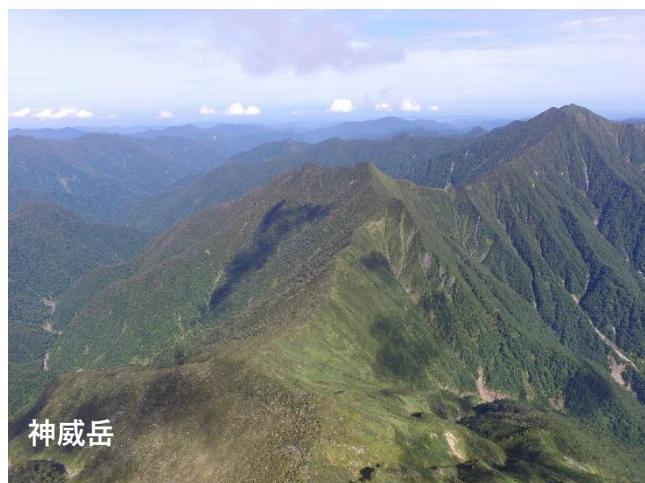
こんにちは 森林官です！

日高南部森林管理署 西舎森林事務所
地域統括森林官 二階堂 辰也（写真右側）



【管内の概要】

私の担当している地域は、浦河町、えりも町の国有林で、札幌市から南東に約 180km、帯広市から南西に約 150 km、えりも岬から西に 50 km の場所に位置しており、北は日高山脈、東は様似町、南は太平洋、西は新ひだか町に接していて、山岳は、神威岳（標高 1,600m）、ピリカヌプリ（標高 1,631m）などがあり「日高山脈襟裳十勝国立公園」の一角を占めています。



神威岳

浦河町は、競争馬を育成していることでも有名で、また、浦河町、えりも町の沿岸部で採れる昆布は、日高昆布の産地としても知られています。



競走馬

【森林事務所の主な仕事】

私の勤務する森林事務所は、二つの担当区（西舎、野深）の管理面積を合わせると約 28,000ha になります。全体的に地形が急峻で沢が深く、岩壁や切り立った峰が多く存在しています。

主な業務は、森林の調査、境界の管理や巡視、各種の請負事業の監督業務などです。今年度は、担当区内において、林道新設工事が行われたため、工事の支障となる立木の調査も行いました。

令和 7 年 2 月に完成した春別本流支線林道（延長 1.8 km）により、林地へのアクセスが格段に容易となったため、今後、より効率的な森林整備の推進が期待されます。



林道新設工事

また、近年エゾシカの個体数増加に伴う、農林業への被害が大きな問題となっていることから、できるだけ可猟区を設定するよう心掛けています。

【最後に】

当森林事務所で仕事をするようになって 2 年が経とうとしております。これからも冬期における作業は続きますが安全と健康に留意し、地元の特色に留意しながら森林事務所所員が一丸となって、日々の業務に取り組んでいきたいと考えています。

美しの森 お薦め国有林

桂沢スキー場野外スポーツ地域

空知森林管理署

【桂沢スキー場野外スポーツ地域の特徴】

三笠市にある桂沢スキー場野外スポーツ地域は、国民の皆様が身近に森林と触れ合える場として、「レクリエーションの森」に設定している場所の一つです。スキー場周辺には、針広混交林が多く見られ、針葉樹はトドマツ、エゾマツ、広葉樹はミズナラ、ウダイカンバ、シナノキ、などが生育しており、幹廻り560cmを超える「桂沢のミズナラ」もあります。



【三笠市の魅力】

三笠市は、豊かな森と湖に恵まれ、北海道の石炭と鉄道の発祥の地として栄えた歴史あるまちでもあります。

この地は、明治元（1868）年、幌内地区という所で大地の遺産である「石炭」が発見されたことを契機に開拓された場所です。また「エゾミカサリユウ」、「アンモナイト」をはじめとした多くの化石を産する、地質学的にも重要な地域と言われており、まちの形成そのものが「ジオ（地球、土地）」と密接に関わってきた場所であることから、三笠市全体がジオパークとして指定されています。

また、スキー場に隣接して自然環境に恵まれたファミリーランドみかさ遊園があり、そこから2km西に日本一のアンモナイト化石の量を誇る市立博物館があります。

【スキー場の特徴】

スキー場は、北向きで雪質も良く、初心者から上級者までレベルに合わせて好きなコースを楽しめます。土日祝日は、キッズパークがオープンし、チューブ滑りや遊具など小さいお子様も一緒に楽しめるようになっています。

また、市内の小・中学校はもとより、市外の小・中・高等学校のスキー授業等での利用もされており、地元の身近な存在になっています。



《桂沢スキー場の概要》

- 住所：北海道三笠市西桂沢 5 0
- 営業時間：9：00～16：00
- 定休日：シーズン中無休
- 駐車場：約200台（無料）
- コース：滑走距離490～855m、最大斜度31度、平均斜度16度、高低差218m
- リフト：ペアリフト1基/811m（中間降り場までは402m）
- お問い合わせ先
「桂沢国設スキー場」
電話：01267-6-8235
「三笠市役所産業政策推進部
商工観光課商工観光係」
電話：01267-2-3997



【森林技術・支援センターとは】

森林技術・支援センター（以下「技術センター」という。）は、森林・林業に関する技術開発及びその普及・支援を目的に全国の各森林管理局に1箇所ずつ設置されており、北海道森林管理局では、北海道北部の士別市に配置されています。

【技術開発課題】

技術センターでは、北海道の森林・林業に貢献するため、施業の低コスト化・省力化等の観点から、様々な技術開発に取り組んでおり、その成果について情報発信しています。今回は、その技術開発の取組について紹介します。

技術開発課題①

「低コストを目指したトドマツ等の低密度管理の検証及び技術の確立」

人工林が本格的な利用期を迎え、主伐が増加傾向で推移する中、再造林コストの低減が重要な課題となっています。



トドマツ低密度植栽試験地

このため、植栽密度の違いによる初期成長及び植生回復の影響による下刈省略の可能性を検討する低密度植栽試験地と本数密度差による成長から将来の除間伐の密度管理体系を検討する強度除伐試験地を設定し、植栽木の成育状況を調査し、立地条件に応じた植栽密度やその管理手法の確立に取り組んでいます。

技術開発課題②

「天然更新による広葉樹資源の持続的育成手法の確立」

北海道の天然林は、林床にササが密生していることにより、後継樹の更新が阻害されている森林

が多くみられます。こうした森林では上層木が消失すると疎林化し、自然回復には長い期間を要する可能性があります。また、回復



ササが密生する広葉樹林

のために行う苗木の植栽は、コストが高くなっています。そこで、広葉樹資源を持続的に育成していくため、「地がき」と「根返し」を組み合わせ、天然力を活用した更新補助作業技術の確立に取り組んでいます。

技術開発課題③

「天然更新カンバ類の效果的保育手法の確立」

天然更新したカンバ類の保育方法は確立されていません。台風等による風倒被害の跡地にカンバ類の高密度の一斉林が発生する



シラカンバの一斉林

場合がありますが、そのまま放置すると衰退してしまうケースが見受けられます。このようなカンバ類を健全な森林に誘導するとともに、森林整備を通じて発生した木材を安定供給するため、更新初期の刈り払いや若齢期に行う効果的・実用的な除伐作業技術の確立に取り組んでいます。

【おわりに】

技術センターでは、地域の森林の特性に応じた様々な技術開発に取り組んでいます。詳しくは、技術センターのホームページで公開しています。是非ご覧ください。



各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

北海道警察と合同で 夏、冬遭難防止啓発 用ポスターを作成



【企画課】

北海道森林管理局と北海道警察は、山岳遭難の防止及び森林での活動の安全を広く呼び掛けるため、ポスターを作成して普及啓発活動を行っています。外国からの観光客が増えてきたことに対応し、日本語に加え、新たに英語、韓国語、中国語のポスターを作成しました。安全を呼びかけるのは、イメージキャラクターの「林リン子」、「山岳守」及び北海道警察マスコットキャラクターの「ほくとくん」です。

北海道長沼高等学校 にて出前授業を開催



【企画課】

2月4日に、北海道長沼高等学校において、2年生約30名を対象に出前授業を開催しました。長沼高等学校の生徒の皆さんは、これまで空知森林管理署と協力して、地元の防風保安林（国有林）の整備も進めています。当日は、「森の魅力を伝える仕事」と題し、日本の森林・林業・木材産業の現状やそこで働く人たちの重要性に加え、仕事の中でどのように自分の強みを活かすかという社会人の心得についての講義を行いました。

森林火災予防の取組 に係るJICA研修を 実施



【企画課】

2月10日に、北海道森林管理局において、インドネシア環境林業省からのJICA研修生7名を受入れました。北海道森林管理局次長表敬の後、「北海道森林管理局の概要」と「山火事予消防の取組概要」について講義し、その後、インドネシアの情報も聞きつつ、意見交換を行いました。研修生の皆様からは、「森林火災の平時における取組」や「森林火災時の地域との連携方法」などについて、積極的な質問がありました。

ウッディホールに新 しい木のおもちゃが 入りました



【技術普及課】

12月下旬に、北海道森林管理局1階ウッディホールに新しい木のおもちゃが入りました。新しく加わったのは「どうぶつパズル」、「さかなつり」、「きしゃパズル」、「パズルトラック」、「カタカタぞう&ヒツジ」です。ウッディホールの木育コーナーでは、北海道産材で作られた木製おもちゃ等で遊べます。是非、ウッディホールに遊びに来てください。

広報 「北の森林 国有林」2月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



【今月の表紙 天塩岳】

今月は、天塩岳の冬の風景写真を表紙にしました。

樹氷に光が当たるとキラキラ輝き、北海道の冬ならではの幻想的な風景となります。



今月の表紙